高山空家活用コンテスト

『目的』

空家の新たな活用方法の提案、発信を行うこと

で空家問題に関する意識を高めるとともに、

空家の活用を促進する。

今回の目的を鑑みて、私的な主観から読みかえ

させていただいた。

提案させていただきたいことは、高山市の最大の魅力である

“秘境的立地における守り継ぐ文化と

誇り高き商人・職人魂の再構築”

が可能となるような空家の新たな活用方法である。

『提案の背景』

私は東京で社会人する傍ら、多摩大学大学院で学ぶ学生である。
本プロジェクトを知ったのは、昨年の末に学校より紹介頂いた
ことがきっかけである。
本年の１月３日に妻とともに高山市の視察に伺った。高山市ま
では車を利用した。

なお、高山市に伺ったのは今回が初めてある。

松本市から１５８号線を走り、高山市へ入る。
峠を越え町に入る感じが秘境感を高め、高揚感を感じる。

街並みは文化的建築物が丁寧に保存され、昔の生活の様や
職人の粋さや技術、仕事の誇りが感じとれる。

資料館では高山市の歴史に触れ金森時代に花開く旦那衆に
代表される商人の力強さと質素さに刺激を受ける。

朝市では、その商人魂の継承も垣間見ることができる。

遠く離れた地から来たものとして高山市は誇り高き町の
資質があると感じる。その感じた熱い思いを伝えたいと
思い、本コンテストで提案をさせていただいた次第である。

興味を持ち資料に目を通して頂いた皆様に感謝申しあげます。

籾井　伸之

大新町の家

「日本文化を伝え体感する場」

本物件の立地特性は二方を川で仕切られ、
駅からの離隔距離があることである。
地理的に仕切られた立地を活かし、日本文化
体感ゾーンとして周辺区域連携した別格感を
強みとしたい。
その入口となる本物件では、昔の調理器具
（竈等）を使った郷土料理の作り方を体感し、
食べれる場として区域誘導の引力としたい。
周辺区域には瞑想体験、茶道、華道、書道、香道、
伝統音楽など徹底的に日本文化を五感で感じ
とれる配置し、日本文化の集積する。
旦那衆の家屋群を日本人として誇れる町とする。

八軒町の家

「伝統建築技術で作るモデルハウス」

本物件の最大の特性は高山陣屋脇である。
高山陣屋の魅力は建築美だと私は思う。
この伝統的建築技術と知恵を再解釈し、
現在の建築基準法に適合するする形で
作るモデルハウスとしたい。
陣屋のような素晴らしい建築技術の家に
住みたいと思うのは私だけではないはずだ。
高山市の芸術的な職人技に惹かれ技術を身
に着けたいと思う人。憧れて伝統的家屋を
建てて住みたいと思う人を誘う引力としたい。

大門町の家

「地元の人しか知らない秘境の名店」

高山市を訪れた際に一番感じたことは
地元の人とのコミュニケーションの「場」
がどこにあるかだ。
利便性の良い商店街に位置する立地での
「看板を出さない店」はどうだろうか。
営業時間も何を売っているのかさえわからない。
地元の人の紹介なしには入ることのできない
一見さんお断りの店。
地元の方との交流の先にあるちょっとした
優越感の味わえる場としたい。